

## 17 高次脳機能障害支援者養成研修の普及

### ―都道府県における研修実施の支援について―

企画・情報部 高次脳機能障害情報・支援センター 立石博章、今橋久美子、鈴木響子、菅原里美、野月夕香理、大畑秀央、多田由美子、阿部真市、河内美恵

#### 1 背景

##### (1) 高次脳機能障害支援者養成研修カリキュラム・テキストについて

令和2～4年度の厚生労働科学研究「高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究」(研究代表:深津玲子国リハ顧問)により、障害福祉サービス事業所等において高次脳機能障害の障害特性に応じた支援を実施できる支援者を養成することを目的として、支援者養成研修カリキュラム及びテキストが開発された。

テキストの活用促進を図るため、高次脳機能障害情報・支援センターでは、ウェブサイトにおける研修動画の掲載及びテキストにより研修を実施する機関・団体への研修パッケージ(研修動画、パワーポイントテキスト、シラバス等)の貸出を開始した。

##### (2) 支援者養成研修の制度化について

令和6年2月、開発されたカリキュラムによる「高次脳機能障害支援養成研修実施要綱」等が厚生労働省から発出され、同研修が都道府県の事業として制度的に位置付けられた。

また、令和6年度の障害福祉サービス等報酬改定により、高次脳機能障害に関する専門性を有する職員を配置する事業所を評価する「高次脳機能障害(者)支援体制加算」が創設され、同研修の受講が加算算定要件とされた。

#### 2 都道府県における研修実施の支援について

##### (1) 都道府県における研修実施状況を調査した。回答した45都道府県のうち、令和6年度研修

開始:17、7年度開始予定:22、未定:6であった。課題として、「研修講師、ファシリテーター等の確保、養成」「研修実施方法」を挙げる都道府県が多かった。調査結果については、「高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会」において報告し、都道府県への情報共有を図った。

##### (2) 学院において、都道府県における研修の企画・実施、講師等を担う者を対象として、「高次

脳機能障害支援養成研修(指導者研修)」を実施した。研修未実施の都道府県が多いことから、研修カリキュラムを網羅しつつ、研修を実施する際の留意点等を伝達するよう企画した。

##### (3) 令和7年度「全国連絡協議会」では、(1)の調査結果を踏まえ、先行して研修を開始した

4府県による実施状況の報告及び課題の共有を行った。

#### 3 今後の課題、展開について

##### (1) 今年度は、42都道府県において研修が実施(予定)されている。各地の研修実施状況及び課題等を把握し、指導者研修の内容をブラッシュアップしていく必要がある。

##### (2) 研修修了者が地域における支援の中核となり、各地の支援体制の充実を図っていくための仕組み作りが重要である。そうした取組に関する先進的な事例をモデルとして広く情報提供していくことも必要と考える。